

同友会で何を学ぶのか

学びあう場としての例会

同友会は悩みや課題を持つ経営者が、相互の経営体験を交流し、謙虚に学びあうことを基礎として活動すること最大の特色があります。この学びあいの場の中心が支部活動で行う例会です。

例会は、会員の経営体験の報告とそれを受けてのグループ討論が基本となります。報告者は問題提起者です。報告者の話を自分の体験に重ねて聞き、さらに他の人の意見や経験も交えて討論をすることで自社の実践に取り入れることができます。

学び方を学ぶ

同友会はお互いの学び合いを称して「会員一人ひとりが先生であり、生徒である」と言っています。同友会の活動の場では、すすんで自分の経営体験を語り、親身のアドバイスを受け、経営体質改善の糧とする姿勢が大切です。経営のさまざまな手法だけでなく、一人ひとりの経営体験から普遍化できるものをつかみとり、創造的に自社に生かしていく。そのために、学ぶ力を高めることが同友会での学びといえます。

学んだことを実践する

同友会で学んだことは、自社で実践しなくては本当に学んだことにはなりません。新たな工夫と努力を加えて実践し、成果を出し、自社が変わっていく。そして、その体験をまた同友会の中で語り、さらに高めて行くことが「実践をする」ということです。

同友会は「地域と中小企業」を強く、豊かにすることをめざす会です。



定時総会



みやざき中小企業経営フォーラム



新春経営者交流会



各支部例会の様子



頭を下げて仕事をもらえるのが当たり前という商売人の慣習に疑問を感じていた頃の出来事です。歓楽街の飲食店にお花を届けた時、そこに居合わせた社長さんに「これで買えるだけの花をくれ」と床にお金をばら撒かれたことがあります。「花屋はこんな下に見られているんだ」と悔しさを噛み締めながらお金を拾いました。同友会に入り、仲間と学び合い、「自分たちの職業は恥ずかしいものではない」と花屋の仕事に誇りを持てました。と同時に、延岡はまだまだ商売人の立場が低い、そして地域の生花業界もまだ未熟、そんな現状も直視することができ、もっと勉強しなくてはならないと思いました。

変わったことはありませんか？

同友会に入会して

宮崎のお花をもっと動かし、もっと付加価値をつけたい、そのような思いで海外展開を目指しています。今年の四月二十七日に中国の大連に出店することができました。生鮮物の輸出入は検疫に時間がかかるため、現状では日本産の花を取り扱う上で課題が多いのですが、これまで培った技術を生かして販売、卸業を行い、取扱量を増やしていきたいと思っています。また、これを皮切りにベトナム、ミャンマー、台湾、マレーシア、シンガポールなどアジア圏全域との取引を目指します。

これからの展望をお聞かせください。

また自社の課題にも気づくことができました。家族経営だったため財務が弱く、分析ができていなかったため、売り上げは大きくても利益が出ていないサービスや商品があることに気づくことができていませんでした。現在は財務分析を強化して、小さな積み重ねを大事にしなが課題に向き合っています。

同友会は、商品をよくしようとしているのではなく、商品を売る人そのものをよくしようとして学び合っています。そこに惚れたから、同友会での勉強を続けています。



岡田さんが代表になった経緯について教えてください。

元々は福岡に住んでいたのですが、花屋をしていた父親に呼び戻されて帰宮しました。ところが、花屋ではすぐには必要ないと言われたため、県内の書店で働きました。そこでは店長から副社長まで昇進したのですが、社長との意見の違いで退社。その後、家業の花屋を継ごうと決意して岡田花店

宮崎の花は日照時間の長さや穏やかな風、澄んだ水、そして温かい人の心で元気に育てられています。この素晴らしい花を自然のままお届けしたいので、二日に一度市場に行き花を仕入れ、フラワーキーパーを置かず鮮度の高い状態で販売しています。また、ブライダル装花はもちろん、祭壇の装飾、アレンジ教室まで幅広く営業活動を行っており、地域ZONERの店を目標としています。お花教室は県北唯一のFDAフラワーデコレーター協会認定校です。

岡田花店について教えてください。

株式会社岡田花店は一九六一年創業。延岡市の店舗は、自然のままの新鮮な花を提供するためフラワーキーパー（生花用冷蔵庫）を置かないことにこだわり、県北最大規模を誇る。今年（二〇一九年）、中国の大連金普新区に大連延岡商貿有限公司を設立し、花店経営、卸、市場、貿易、飲食等の事業に取り組む。延岡市と大連が友好都市締結をして七年目であり、この締結をきっかけに進出したのは同社が初めてである。代表取締役の岡田明利氏は、協同組合延岡生花地方卸売市場の代表理事をはじめ、地域の経営者団体の要職を務め、地域貢献活動にも精力的に活動している。宮崎県中小企業家同友会（以下、同友会）には二〇一一年に入会。現在は県北支部の代表幹事を務める。地域づくりと経営に全力で邁進し続ける岡田氏に話を聞いた。

一生を自分らしく楽しく生きるために
自分の仕事に誇りを持って掘り下げよう



に入社したのが二六歳の時です。二〇二二年、四一歳の時に代表取締役役に就任して今に至ります。

理由を教えてください。

同友会に入会した

地域の活動を積極的に行なっていると、地元の方の経営者にいろいろお世話になることも多く、当時の県北支部代表幹事に誘われて例会に参加しました。例会のグループ討論で、私の話を興味深く聞いてくれたのを覚えています。同友会の会員には知り合いも多く、ちょうど延岡商工会議所青年部も卒業間近だったため、最初はおつきあいのつもりで入会することにしました。それが二〇一一年、五〇歳の頃です。



宮崎の経営者にメッセージをお願いします。

経営は大変だけど、魅力がある仕事です。自分が経営できるという立場にあることをフルに使うべきだと思います。私は楽しくてしかたありません。一生を自分らしく生きることが大切です。自分の仕事をつまらなく感じている経営者が多いような気がしますが、自分の仕事をもっともっと掘り下げてほしいですね。それを勉強できるのが同友会だと思います。

文・構成・撮影



竹原 英男
TNAソリューションデザイン株式会社 代表取締役
宮崎北支部・理事・県増強本部長・組織強化連絡会議リーダー・産学官民連携部会 MANGO 会長（兼担当理事）・広報委員会担当理事・青年部設立準備会担当理事

本資料は同友会の会員がゲストや非会員を訪問したり、入会や例会参加をお誘いする際に活用していただくために試験的に増強本部が発行しています。PDFファイルをダウンロードできますので、印刷する等としてご利用ください。